

糖尿病性腎症の新薬について



お答え
はまもと内科クリニック
濱本博美 院長

■プロフィール 鳥根医科大学
(現鳥根大学)医学部卒業。岡山
大学附属病院、倉敷中央病院、
心臓病センター附原病院、日本
鋼管福山病院、国家公務員共済
組合虎の門病院、福山市民病院
を経て2017年「はまもと内科ク
リニック」を開院。日本糖尿病
学会認定糖尿病専門医、日本内
科学会認定総合内科専門医
(メモ) ☎084(943)4976はま
もと内科クリニック(南蔵王町
5-6-9) [http://hamamoto-
naika.com/](http://hamamoto-naika.com/)

「はまもと内科クリニ
ック」の濱本博美院長に、
糖尿病性腎症の新薬につ
いて聞きました。

Q 糖尿病性腎症とは
どのようなものですか。
A 糖尿病を長く思う
と、一部の患者さんでは、
腎臓に合併症が出て、最
終的に透析が必要になる
ことがあります。このよ

うな状態を糖尿病性腎症
といいます。最初の兆候
は尿に微量の蛋白(たんぱ
く)が下りること、これは
糖尿病の治療が不十分な
場合、発症から10年前後
でみられます。その後も
血糖値が高い状態が続け
ば、20年前後から透析治
療が始まる可能性があります。
「血液検査で分る
のでは?」と思われるで
しょうが、血液検査に異
常が出始める頃には、す
でに腎臓の機能は正常
の半分以下になっていま

す。これまで、この状
態からでは食事療法を頑
張っても、血圧を下げて
もなかなか改善は期待で
きず、そのまま進行して
しまうことが多々ありま
した。

Q 新しい治療薬につ
いて教えてください。

A 糖尿病の薬の中に
は、血中の糖を尿の中に
強制的に排泄させるSGLT2阻害薬という薬剤
があります。腎臓に作用
する薬のため、当初は腎
臓の機能が低下すると、
効果は期待できないとい
われていました。しかし、
この薬剤に腎機能の悪化
を食い止める作用がある
ことが分かり、実際に悪
化を続けていた数値が使

用後に改善してきた例も
あります。この効果は糖
尿病のない腎臓病の方に
も認められ、保険適用が
進んでいます。

また、これらの薬剤を
使用していても徐々に進
行してくる場合があります。
そのような症例には

非ステロイド型選択的M
R(鉍質コルチコイド受
容体)拮抗薬という新た
な薬剤が昨年から使用可
能になりました。これは
鉍質コルチコイドの過刺
激を抑え、腎臓の炎症
や繊維化に効果を発揮
する薬剤です。末期の腎
不全でない限り使用可能
です。しかし、従来の

類似薬より副作用が軽減
しているとはいえず、血中
のカルシウム値が高くなり
やすい点に注意が必要で
す(血中のカルシウム値が
高くなり過ぎると不整脈
を起こす可能性があります)。
また、これらの薬剤を
使用していても徐々に進
行してくる場合があります。
そのような症例には

Q 新薬の登場によっ
て、透析を受ける方の数
に変化はありましたか。
A 治療薬の開発が
次々と進んだおかげで、
新たな透析が始まる患者
数は近年、これまでの勢
いが段々と低下してきて
います。とはいえ、転ば
ぬ先の杖(つえ)。糖尿病
の早い段階から良い血
糖値を維持していくこと
が、最も予防効果が高い
と言えます。新薬につい
ては、主治医にご相談を。

また、これらの薬剤を
使用していても徐々に進
行してくる場合があります。
そのような症例には